

# 新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する緊急アンケート集計結果(第二弾)

(速報・岩手版)

2020年7月17日

岩手県保険医協会

目的:新型コロナウイルス感染拡大により、非常事態宣言が解除されたものの、「新しい生活様式」による日常生活の提示がされている。

岩手県では7/15現在でも感染者が確認されていないが、5月に当会開業医会員を対象としたアンケートでは、多くの医療機関において、前年同月比(4月)で大幅な患者数の減少と保険診療収入が減少していることが明らかとなった。

5月は、首都圏などの一部地域に先がけて、岩手県では非常事態宣言が解除され、徐々に経済活動が再開し、外出の自粛も緩和されつつある状況だった。そのような状況下で、医療機関の患者数や保険収入などの実情を把握し、諸課題を発信したい。

調査期間:2020年6月23日～6月29日

調査方法:FAXによる送受信

対象者 :岩手県保険医協会 FAX登録開業医会員 医科会員 308名 歯科会員 324名

回収率 :医科会員 23%(71件)、歯科会員 14%(46件)

## 目次—

### 1、基本事項

- |            |                          |
|------------|--------------------------|
| ① 回答者の年齢構成 | 3、前回(2020年4月前年同月比)調査との比較 |
| ② 医療機関の形態  | 4、その他の意見                 |
| ③ 主な標榜科    | 5、まとめ                    |

### 2、患者動向について(前年5月との比較)

- ① 外来患者数
- ② 保険診療収入

問い合わせ先

岩手県保険医協会

盛岡市盛岡駅前通 15-19 フコク生命ビル 8階

TEL019-651-7341 FAX019-651-7374

担当事務局 畠山

# 1、基本事項

## 1-①年齢

### 医科

20代～30代	1	1%
40代	6	8%
50代	21	30%
60代	29	41%
70代	14	20%
NA	0	0%
合計	71	

### 歯科

20代～30代	1	2%
40代	5	11%
50代	13	28%
60代	22	48%
70代	5	11%
NA	0	0%
合計	46	

## 1-②医療機関の形態

### 医科のみ

病院	1	1%
診療所	70	99%
NA	0	0%
合計	71	

## 1-③診療科の主な標榜科

### 医科

内科	34	48%
精神科	1	1%
小児科	6	8%
外科	2	3%
整形外科	4	6%
皮膚科	1	1%
泌尿器科	3	4%
眼科	5	7%
耳鼻咽喉科	2	3%
産婦人科	5	7%
その他	7	10%
NA	1	1%
合計	71	

### 歯科(複数回答)

歯科	44	96%
口腔外科	9	20%
小児歯科	15	33%
矯正歯科	8	17%
NA	2	4%
合計	46	(対象数)

## 2、患者動向等について(今年5月と前年5月との比較)

### 2-① 外来患者数について

#### 医科

#### 医科 減少の程度

変化なし	10	14%
増えた	1	1%
減った	59	84%
合計	70	100%
NA	1	

～10%	16	28%
～20%	20	35%
～30%	13	23%
～50%	7	12%
～70%	1	2%
70%以上	0	0%
合計	57	100%
NA	2	

#### 歯科

#### 歯科 減少の程度

変化なし	9	20%
増えた	2	5%
減った	33	75%
合計	44	100%
NA	2	

～10%	8	26%
～20%	14	45%
～30%	7	23%
～50%	1	3%
～70%	1	3%
70%以上	0	0%
合計	31	100%
NA	2	

医科では8割を超える医療機関で外来患者数が減少している。減少幅も10～20%という回答が多いが、半数以上減った医療機関もある。

歯科でも、75%の医療機関で外来患者数が減少した。医科同様減少幅も10～20%という回答が多い。

付帯意見として、薬の長期処方の影響や患者の健康状態を心配する声がある。また、待合室のレイアウト変更などによる、患者間のトラブルなども報告されている。

### 2-④ 保険診療収入について

#### 医科

#### 医科 減少の程度

変化なし	10	14%
増えた	1	1%
減った	58	84%
合計	69	100%
NA	2	

～10%	19	34%
～20%	19	34%
～30%	13	23%
～50%	4	7%
～70%	1	2%
70%以上	0	0%
合計	56	100%
NA	2	

#### 歯科

#### 歯科 減少の程度

変化なし	10	23%
増えた	4	9%
減った	30	68%
合計	44	100%
NA	2	

～10%	11	41%
～20%	8	30%
～30%	5	19%
～50%	2	7%
～70%	0	0%
70%以上	1	4%
合計	27	100%
NA	3	

保険診療収入については、感染者がいない岩手県の医療機関においても、減少したとの回答が、有効回答数の

なかで、医科 84%、歯科が 68%となり、4 月に引き続き減少が目立つ結果となった。医科、歯科とも、外出自粛ムードが高まった 3 月も含め、調査を始めた 4 月から連続の減収となっている医療機関が大半であり、医院経営が厳しい状況は続いている。先月の調査時にはなかった「閉院を考えている」との意見があった。

### 3、過去の調査との比較

#### 患者数

##### 医科 患者数 (対前年同月比)

医科患者数	2020年4月	2020年5月
変化なし	19%	14%
増えた	0%	1%
減った	81%	84%
合計	100%	100%

##### 歯科 患者数 (対前年同月比)

歯科患者数	2020年4月	2020年5月
変化なし	30%	20%
増えた	7%	5%
減った	62%	75%
合計	100%	100%

##### 医科 患者数減少割合

対前年同月比	2020年4月	2020年5月
～10%		28%
～20%		35%
～30%		23%
0～30%	86%	86%
～50%	13%	12%
～70%	1%	2%
70%以上		0%
合計	100%	100%

##### 歯科 患者数減少割合

対前年同月比	2020年4月	2020年5月
～10%		26%
～20%		45%
～30%		23%
0～30%	92%	94%
～50%	5%	3%
～70%	3%	3%
70%以上		0%
合計		100%

医科、歯科とも、4 月よりも 5 月の方が患者数が減ったという回答の割合が増加している。経営の問題も深刻ではあるが、患者が治療途中で通院自粛をしているケースもあり、症状の悪化を心配する声も寄せられている。また、このままインフルエンザの流行期に突入した場合に対応できないのではないかと危惧する声も寄せられている。

#### 保険収入

##### 医科 保険収入 (対前年同月比)

医科保険収入	2020年4月	2020年5月
変化なし	16%	14%
増えた	1%	1%
減った	83%	84%
合計	100%	100%

##### 歯科 保険収入 (対前年同月比)

歯科保険収入	2020年4月	2020年5月
変化なし	30%	23%
増えた	12%	9%
減った	58%	68%
合計	100%	100%

##### 医科 保険収入減少割合

対前年同月比	2020年4月	2020年5月
～10%		34%
～20%		34%
～30%		23%
0～30%	88%	91%
～50%	8%	7%
～70%	5%	2%
70%以上		0%
合計	100%	100%

##### 歯科 保険収入減少割合

対前年同月比	2020年4月	2020年5月
～10%		41%
～20%		30%
～30%		19%
0～30%	94%	89%
～50%	6%	7%
～70%		0%
70%以上		4%
合計	100%	100%

保険収入に関しても、患者数に比例して、大半の診療所で連続して減少している。特に歯科では、4 月と比較して減少したと回答した医療機関が 10%増えており、前年同月比で、収入が 70%以上減少したという医療機関もあった。意見欄では、収入が減っている中で、感染予防のための経費は増えている。衛生用品の高騰により十分な在庫の

確保も厳しい状態が続いており、経営が非常に厳しく、感染防止対策の資金援助を求める声が寄せられている。国の第2次補正予算において、「院内感染拡大防止対策支援金」が設定されたことは評価できるが、柔軟かつ早急な給付が求められており、長期的に利用できるような制度拡充と増額が必要である。

#### 4、その他の意見

衛生用品、防護用品については、価格の高騰により、経営に影響しているという意見が多く、専門業者からの入手は未だ困難であるとの意見もあった。また、入手できる内に、自治体等で十分な備蓄を行い、仮に第2波、第3波が来た場合に備えて、今回のようなマスクや消毒薬が入荷しづらいという状況にならないようにしてもらいたいという要望もあった。

また、医科会員からは、冬のインフルエンザ疑いとの違いをどうつけるのか、インフルエンザの検査に新型コロナウイルスの感染リスクがあるとなった場合、自院で検査や投薬ができないのではないかと意見があった。

#### 5、まとめ

岩手県では、7/15時点でも新型コロナウイルスの感染者が確認されていないが、県民の医療機関への受診自粛は続き、国内での新型コロナウイルス感染が発生後、多くの医療機関において減収が続いていることが判明した。閉院を考えているという回答もあり、このままでは、地域医療全体が機能不全に陥る可能性がある。

また、受診の自粛が続いた場合、県民の健康保持にも影響を及ぼす。アンケート結果でも述べたように、これから、インフルエンザの流行時期に入り、新型コロナウイルスの第2波の流行と重なった場合、多くの県民の命と健康に深刻な影響を及ぼすこととなる。医療機関への受診は不要不急ではなく、県民には、健康診断や予防接種等を早期に受けるよう呼びかけるものである。

医療機関は、各自、院内感染対策に努めている。国の補正予算により、感染対策に一定の支援金が出るようになったが、長期的な感染予防対策や衛生用品、防護用品の在庫確保には課題が残っている。できるうちに、国や自治体において、マスク、消毒薬等を備蓄し、今後、衛生用品等の不足によって、診療ができないということがないように、第2波、第3波に備えた政策を求める。

また、これまで岩手県内で感染者が確認されていない理由の一つとして、医療従事者の感染予防に対する努力があげられる。しかし、医療従事者というだけで風評被害を被っているという声も寄せられている。また、経済活動が再開されつつある中、医療機関では、根拠のない情報による質問や職場から新型コロナウイルスに感染していない診断書の提出を求められた患者が来院し、対応に困惑しているという意見もあった。国や県、報道機関には、県民に適切な情報を提供するようお願いしたい。

当会では、引き続き医療提供体制を堅持し、地域医療を守るために、以下の施策の実現を、国・自治体に求めていく所存である。

- ・医療機関向けの減収補填策や持続的な給付金、補助金制度を早急に創設し、公費を投入して地域医療が機能不全とならないような政策をとること。
- ・受診控えによる住民の健康悪化や重症化を防止するため、県民に対して、安心して医療機関を受診するよう積極的に広報すること。また、収入が減少している県民に受診抑制が生じないように、県独自の医療費助成制度の拡充や国民健康保険の減免措置を講じること。
- ・医療従事者や感染者に対し、風評被害や差別等がないよう、適切な情報を提供すること。

以上